

運動観察能力を高める保健体育の授業づくり

～中学校器械運動領域マット運動～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

出井 大智

本研究は、体育科授業の運動学習領域において、生徒の運動観察能力を高める授業づくりが、生徒の学習や態度を高める実践を提案することを目的とした。

本研究では、中学校第一学年を対象に器械運動領域マット運動において研究授業を行った。学習カードによる目標設定と内在的フィードバックの促進、練習時の動画から「上手くできた一コマ」を抽出する活動、仲間の演技を評価し助言し合う協働的学習を手立てとして8時間の授業を構成した。授業前後の比較では、授業実践対象生徒においてマット運動への肯定的態度が向上し、基本技・発展技の習得数も増加した。学習カードの記述は外見的特徴中心から、身体感覚や動きの過程を捉えた内在的表現へと変化し、観察・分析・言語化能力の向上が確認された。また、仲間との相互助言を通して協働的学習への肯定的態度も高まった。これらの結果から、ICT を活用した運動観察は技能向上だけでなく、主体的・協働的な学びを促進する有効な手立てであることが示唆された。